

ラクダライドデビューまでの歩み

高橋 亨祐

よこはま動物園では、動物とふれあいができる場所は、平成 19 年にオープンした「ばかばか広場」でのポニーのひき馬体験や給餌体験、モルモット等とのふれあいのみであった。その後、平成 25 年 4 月、「アフリカのサバンナ」エリアが一部オープンし、バードショーやヤギのふれあいとともに、来園者がラクダに乗ることができるイベント「ラクダライド」を開始した。新施設で新たにふれあい体験が行われ、ラクダライドでは実際にラクダに乗ることによって、体の大きさや乗っている時の独特の揺れや、温かさを体感できる。また、体験中には砂漠で生きるラクダの体の特徴や使役動物としての役割なども紹介している。

今回は、新規導入したラクダがラクダライドにデビューするまでの 2 年半、それぞれの段階におけるトレーニングの内容や起きた事例について報告する。

ヒトコブラクダはアフリカや中東の砂漠地帯で家畜として飼育され、使役動物として人が乗ったり、荷物を運搬したりするのに利用されている。アフリカのエリアであることから、ヒトコブラクダを平成 25 年 3 月に新規導入したが、その個体はほとんどトレーニングを受けていなかった。そのため、デビューするまでの期間は、他園ですでにラクダライドを行っていたフタコブラクダを借り受け実施していた。

新規個体は安全にラクダライドを行えるように、一つずつ段階を踏んでトレーニングを行った。まず、飼育員の号令を聞いて、その行動をすると餌がもらえるということ覚えさせた。そして、トレーニングに必要な号令を覚えさせ、無口をつけリードをつけられるようにした。その後、飼育員がラクダを曳き、ラクダライドを行う場所を歩かせ、その場の雰囲気にも慣れさせた。さらに、人を乗せる負荷に慣らすための重り、鞍を順次つけ、最後に実際に飼育員が乗れるようにしていった。

動物と直接ふれあい間近で観察することは、動物への興味が湧き、さらに環境問題について考えるきっかけともなることが期待できる。今後もラクダを通じて、動物や自然環境への関心が高まるようなイベントを行っていきたい。